

2021-12

学会通信

令和03年12月8日

NO.93

工業経営研究学会  
Association for the Study of  
Industrial Management (Japan)

## 会長就任のご挨拶

大平 義隆 (北海学園大学)

工業経営研究学会会員の皆様、北海学園大学経営学部の大平義隆と申します。工業経営研究学会12期理事会の第1回が2021年9月9日にZOOMで開催され、学会長を仰せつかりました。ここで、学会長就任のご挨拶として、学会に対する私の理解をお示しし、学会発展のためのご協力を皆様にお願ひしたいと思います。

初めに、工業経営研究学会についてです。この学会は1986年に田杉競先生の呼びかけで発足した、我が国の学会の一つであって、モノづくりに関する企業活動を研究対象にする学会です。戦後、重化学工業化の成功で高度経済成長を成し遂げました。その背景は、欧米と異なる制度、すなわち三種の神器（終身雇用、年功制、企業内組合）だといわれています。オイルショック後、低コスト高品質化、ME化で低経済成長を成し遂げました。その背景はQCサークル、改善活動、多能工化、チーム作業方式、JITなどの生産システムの弾力性によるものでした1)。この学会は、こうした中で発足します。生産システムと弾力性、モノづくりのシステムとそれを支える人間のシステム、即ちモノづくりに関する企業活動、これを研究対象にする学会だと理解しています。私は、上記の「弾力性」「それを支える人間のシステム」「関する企業活動」に興味2)を惹かれ1989年大会3)からこの学会に参加しているバーナディアンです。

さて、工業経営研究の課題についてです。その後、バブル崩壊を機に日本的という言葉が消えていきます。生産システムやモノづくりのシステムでは、モジュール化、標準化、オープン化といったビジネスモデルが議論されてきました。弾力性や支える人間システムでは、働き方改革の対象となり、標準的な雇用制度が志向されています。ところがこうした変更には違和感を覚えます。工業経営研究で感じる違和感は、これと同じことではないでしょうか。我々が注目すべきはこの違和感ではないでしょうか。なぜ違和感が生じるのか、何を見落としているのか、なぜ放置してきているのか、これまで通り、地道な研究を積み上げましょう。

次に、工業経営研究学会の魅力です。魅力を述べるのは、会員の皆様に学会のお仲間を増やす働きをしていただくためです。第1に日本の経営の中心にあるモノづくりに関する企業活動を研究対象にする学会であることです。それゆえに、大きな責任があるところが魅力となるはずです。同時に、それを感じ取った人たちが集うところが魅力を膨らませています。第2に技術と理論の調和、現場主義の理念です。調和は理事会が東西で交換されるたび技術と理論が現れます。また、大会ごとに工場の現場見学が用意され、様々な工夫とともに現場に近い学会でいることができます。第3に国際的な活動をしていることです。会員すべてが参加できるグローバル研究分科会は海外企業の現場視察を30年近く毎年続けています。また数年に1度の海外開催は本学会の大きな特徴です。第4に年2回発行される、質の高い論文審査に支えられた学会誌があります。さらに質を高めるために、多くの会

員に皆様には学会誌への投稿をお願いします。第5に優秀な研究を奨励する仕組みがあります。私は台湾東海大学の劉先生と、第1回の奨励賞を受賞し、本当にうれしく、その後の研究の支えになりました。こうした思いを広げるべく、研究奨励の仕組みを工夫していきます。

最後に、これまで特別に4年間コロナ下での困難ななじ取りしながら、モノづくり経営の研究を大きく前に進められた廣瀬会長と11期の理事会の皆様にご心からの感謝を申し上げます。今後3年間、私と理事会の役員は、会員の皆様にご有意義なサービスを提供し、かつ学会の成果が最大となるように、全理事会と気持ちをつながけながら努力してまいります。どうぞよろしくをお願いします。

#### 参照

- 1) 風間(2017)の歴史的解釈を参考にさせていただきました
- 2) 大平(2017)により詳しく興味のあり方が示されています。
- 3) 1989年大会は関東地方で初めて、早稲田大学で大平金一先生を実行委員長として開催されました。

#### 参考文献

風間信隆(2017)「工業経営研究の歩みと新たな課題」工業経営研究学会編『変革期のモノづくり革新』中央経済社。

大平義隆(2017)「我が国工業部門の経営管理における文化差の解釈」、工業経営研究学会編『変革期のモノづくり革新』中央経済社。

田口直樹(2017)「日本のモノづくり技術の再評価と技術競争力再評価の課題」、工業経営研究学会編『変革期のモノづくり革新』中央経済社。

## 第36回全国大会（Web大会）開催報告

第36回 全国大会実行委員長  
中瀬 哲史

昨年北海学園大学にて開催予定だった第35回全国大会は、天笠道裕実行委員長のもと開催の準備が進められながらも、新型コロナウイルスの感染拡大のため、やむなく中止となり、自由論題報告のみ9月7日から1週間、WEB上のオフライン形式での開催、総会案については事務局より会員の皆様にメール配信で確認され、議案の審議、報告を了承されるというものでした。

第36回全国大会は、そうした第35回大会を受け継ぎつつも、新型コロナウイルス感染拡大が収まらないなか、廣瀬会長、田口事務局長をはじめとする学会役員の皆様にご支持、ご協力をいただき、本意ではありませんでしたが、実行委員会（中瀬のほか、関西大学西村成弘会員、岐阜大学宇山翠会員、同志社大学中道一心会員、同志社大学的場竜一会員）にて、すべてオンラインで開催をさせていただくことを決めて取り組んでまいりました。

こうした折でもあり、統一論題のテーマは「新型コロナ禍でみえた工業経営の課題」として、この新型コロナウイルスの感染拡大が、すべての業種、企業に対して一様にマイナス面のみを与えてはいること（例えば、トヨタ自動車は2020年日本国内自動車販売台数が減る中、登録車新車販売シェアが初めて50%を越えました）に鑑み、新型コロナウイルス感染拡大が明らかにした、これまで顕在化してい

なかった工業経営の課題を検討したいと考えました。

第1日目(9月8日)は、13時からの開会式、13本の自由論題報告を3会場に分かれていただいて熱心に報告と質疑応答が行われ、そして会員総会が開かれました。今回の自由論題報告そのものもこれまでの大会と同様に、現在の工業経営の課題を取り上げた、大変興味深いものであるとともに、オンライン報告の司会という難しい役割を、若手から中堅の本学会の会員にお願いして、見事に果たしてくださいました。昨年度からのコロナ禍で学会報告がオンラインで行われ、定着しつつあるとはいえ、報告者、司会者の会員の皆様に熱心に携わっていただいて、心よりお礼申し上げます。

第2日目(9月9日)は、新理事会、3本の講演を内容とする統一論題シンポジウム、オンライン懇親会が行われました。統一論題シンポジウムの報告者、コメンテーターには、まさに「新型コロナ禍でみえた工業経営の課題」というテーマに相応しい会員にお願いしました。菊池航会員(立教大学)には「トヨタのサプライチェーンの頑健性—部品調達構造の系列分析を中心に—」を、劉偉会員(天津理工大学管理学院工商管理系)には「新型コロナウイルス影響下での中国の企業経営とその転機」を、長内厚会員(早稲田大学)には「コロナ禍の企業の対応は生産性重視で良いのか?—不確実な時代の多様性とイノベーション—」をご講演いただき、菊池報告には佐伯靖雄会員(関西大学)から、劉報告には島内高太会員(殖産大学)から、長内報告には原拓志会員(関西大学)から、それぞれ明快で的確なコメントをいただいてやり取りをするとともに、フロアの会員をも交えた「熱い」議論を展開しました。オンライン懇親会には20名ほどの会員がご参加され、統一論題シンポジウムとはまた違った雰囲気の中、ドリンクを片手にリラックスして意見交換が行われ、来年度の千葉商科大学大会では今度こそ対面での全国大会を願って閉会しました。制限された中での全国大会で、昨年度の無念をどこまで晴らせたのかはわかりませんが、ひとまず「成功」と評価できるものではないか、と考えています。

予稿原稿のご案内がギリギリになってしまい、会員の皆様にはご心配をおかけしましたが、本大会が無事に済ませることができましたのも、関係いただいた皆様のおかげです。特に、廣瀬会長をはじめとする第11期学会役員の皆様方、実行委員会の会議はこれまたすべてオンラインで開催されたものの、尽力いただいた実行委員会の皆様、そして今回の大会本部の設定に当たってお世話になった大阪市立大学の関係の方々に支えられたおかげかと思えます。皆様方のご協力、ご支持に、心より厚く御礼申し上げます。

## 投稿論文募集のお知らせ(学会誌 第32巻 第2号)

学会誌編集委員長

秋野 昌二

2022年9月末発行予定の第36巻 第2号への投稿論文を募集します。募集期間と原稿送付先は、次の通りです。

### ■募集期間

2021年11月1日~2022年4月末日まで【必着・厳守】

論文審査は、募集締め切り後にまとめて実施します。

### ■原稿送付先

メールアドレス：editor12th@asimj.sakura.ne.jp

**\* 投稿上の注意は、次の通りです。**

- ・招待論文を除き、論文はすべて査読付となります。
- ・ホームページ掲載のテンプレートにしたがってご執筆いただきます。そのため、校正は行いません。なおテンプレートは最新のものをダウンロードしてお使いください。
- ・キーワードを5ワードまで入れていただきます。
- ・論文の原稿は、WORD ファイルと PDF ファイルの両方を投稿してください。
- ・テンプレートの他、投稿規定・執筆細則・投稿申請書は、学会ホームページに掲載してあります。熟読のうえご投稿ください ([http://asimj.jp/wordpress/?page\\_id=1307](http://asimj.jp/wordpress/?page_id=1307))。

**\* これまでの投稿から以下の変更を試行的に行います。注意してご投稿をお願いします。**

- ・投稿規定第 6 条にあります「印刷された原稿と投稿申請書を各 1 部」についての送付は必要ありません。
- ・投稿頁数は 12 頁以内です。ただし必要な場合は 18 頁までの増頁を認めます。(なおこれまで徴収していた超過頁分の料金は徴収しません。)

## 「学会賞・研究奨励賞・若手研究者賞」候補作品の募集

会員表彰選考審査委員会委員長  
中川誠士

本学会「内規」第 14 条により、2022 年度の学会賞（年齢制限なし）・研究奨励賞（31 歳以上 39 歳まで[10 月 1 日現在]）・若手研究者賞（30 歳以下[刊行時点]）の候補作品の推薦を、2022 年 4 月末日までに中川誠士副会長（会員表彰選考審査委員会委員長）または学会事務局宛にお知らせください。自薦・他薦を問いません。なお、会員表彰推薦書の様式は学会ホームページに掲載されているものをダウンロードしてご利用ください。

## 第 37 回全国大会のお知らせ

池田武俊（千葉商科大学）

第 37 回全国大会は、千葉商科大学にて行う予定です。現下のコロナ禍の状況では、第 37 回全国大会の開催形態（対面・リモート等）を決めかねますので、次回学会通信（2022 年 4 月発行予定）にて具体的な日程を含めた開催方針等の詳細を示す予定です。今しばらくお待ち下さい。

## 第12期 理事会・役員組織

(任期 2021年9月8日～2024年9月総会日)

【会長】 大平義隆 (北海学園大学)

【副会長】 中川誠士 (福岡大学)、秋野晶二 (立教大学)

【学会監事】 那須野公人 (作新学院大学)、【会計監事】 藤原篤志 (駒澤大学)

【理事】 天笠道裕 (北海学園大学)、池田武俊 (千葉商科大学)、宇山翠 (岐阜大学)、田中史人 (国士舘大学)、張書文 (台湾東海大学)、\*中島洋行 (明星大学)、中瀬 哲史 (大阪市立大学)、藤野真 (福岡大学)、\*村上喜郁 (追手門学院大学)、\*李超 (近畿大学)、

\*は会長指名理事

【学会誌編集委員会】

委員長：秋野昌二、担当理事：田中史人、藤野真、村上喜郁、委員：黒澤俊朗

【論文審査運営委員会】

委員長：中瀬哲史、担当理事：大平義隆、宇山翠、張書文

【会員表彰選考審査委員会】

委員長：中川誠士、担当理事：藤野真

【規定改定、学会活動記録委員会】

委員長：田中史人、担当理事：天笠道裕

【産学交流委員会】

委員長：池田武俊、担当理事：宇山翠、張書文

【学会ホームページ・関連学会調査委員会】

委員長：村上喜郁、委員：羽石寛志 (佐賀大学)

【学会事務局】

事務局長：李超、担当理事：中島洋行、天笠道裕

【経営関連学会協議会】

評議員：池田武俊

## 第11期 2021年度第1回理事会・第36回総会報告

日時：理事会 2021年9月7日 (火) 18:30～

第36回総会 2021年9月8日 (水) 16:00～

会場：ZOOM 開催

## 【報告事項】

1. 会員異動について（田口）

昨年9月以降の新規入会者は13名、退会者は10名で、2021年8月31日時点の会員数は284名（正会員228名、院生会員34名、シニア会員12名、名誉会員12名）。

「会則：第6条 会員は、所定の会費を納めなければならない。2. 会員が会費を3年以上滞納した場合、退会したものとみなす」とある。現在、上記に該当する会員が39名。この39名について理事会で審議し、このうち連絡先不明で連絡のつかない10名については規定を適用し退会とすること、残りの29名については機械的に適用することはせず、個別に連絡し会費納入を働きかけることを確認した。
2. 学会誌の出版状況について（黒澤）

学会誌への論文投稿と審査結果の報告があり、学会誌35巻1号（2021年3月発行）：査読論文の投稿が3編、うち掲載決定が2編、掲載不可が1編、学会誌35巻2号（2021年9月発行）：査読論文投稿が4編、掲載決定が2編、うち辞退が1編、掲載不可が1編、という内容であった。
3. 会員表彰の応募状況について（那須野）

学会賞に、野村重信著『リンケージ・マネジメント：価値と継続の螺旋的流れ』（学文社、2020年刊）が推薦された旨報告があった。
4. 会員表彰について（那須野）

学会賞に推薦のあった野村重信著『リンケージ・マネジメント：価値と継続の螺旋的流れ』（学文社、2020年刊）について、会員表彰選考審査委員会から2021年9月7日に開催された理事会において、厳正な審査の結果、本年度の学会賞を授与すべきであるとの結論に達したとの報告があり、審議の結果、授与することを決定した。
5. 工業経営賞・生産経営賞の表彰について（田口）

2020年度総会以降、工業経営賞・生産経営賞の推挙はありませんでした。
6. 経営関連協議会（風間）

7月7日に開催された経営関連協議会の審議決定事項について報告があった。
7. その他  
特になし。

## 【審議事項】

1. 2020年度（2020年7月～2021年6月）会計決算（中島）・監査報告（藤原）
  - ・収入の部については、会費収入が前年度から約11万円、著作権収入が約5万円それぞれ増えたことから、20年度予算と比べて151,531円の増収となっている。費用についてもすべての項目において予算の範囲内の支出にとどまっており、第36回大会開催に向けた予備費も決算では計上されなかったことから、予算と比べて1,220,172円の支出抑制となっている。この結果として、次期繰越金（前期繰越金+20年度収入-20年度支出）は4,238,377円となり、前期繰越金から334,753円の増額となった。
  - ・貸借対照表は、現金46,829円、学会通常会計としての普通預金4,191,548円、積立金口座（特別事業積立金、名簿作成積立金、田杉基金）としての普通預金930,432円があり、資産合計が5,168,809円となっている。
  - ・なお、決算書の項目のうち、「全国大会補助費」250,000円と「全国大会予稿集作成費」200,000円

について、補足説明を行う。全国大会補助費を第 36 回大会実行委員会に振込を行った時点では、第 36 回大会の開催方法（対面またはリモート）が未定であったことから、第 36 回大会実行委員会に全国大会補助費を配分し、これを決算に計上している。第 36 回大会は結果的にリモートでの開催となったが、今後、第 36 回大会実行委員会において予稿集の印刷および郵送等を紙媒体で行う場合には、全国大会補助費から代金の支払いを行い、残額を学会に返金することとなっている。予稿集は PDF ファイルでの配信にとどめ、その他に大会開催に関連する費用発生がない場合には、250,000 円全額が学会に返金される。返金額は 21 年度の決算に反映されることになる。また、「全国大会予稿集作成費」は、第 35 回大会において予稿集を紙媒体で印刷および郵送する可能性があったことから、一度、20 年度予算に計上したものの、結果的に第 35 回大会では予稿集の印刷および郵送は行われなかったことから、決算額は 0 円となっている。

- ・以上の会計報告に対する監査報告が藤原会計幹事からなされ、適切に処理されている旨報告があった。
  - ・以上の会計報告および監査報告について審議の結果これを承認した。
2. 2021 年度（2021 年 7 月～2022 年 6 月）会計予算案（中島）
- ・2020 年度予算を踏襲しつつ、20 年度以前の決算状況も踏まえて、「その他の収入」5,000 円削減および「郵便通信費」（50,000 円削減）について削減を行っている。第 37 回大会においても、新型コロナウイルスの影響により開催方法が不透明な状況であるものの、対面開催を想定し、全国大会補助金（250,000 円）と、大学会場での開催が困難な場合に代替会場を確保するための予備費（500,000 円）をそれぞれ計上している。この結果、次期繰越金は 3,420,427 円を見込んでいます。
  - ・以上の内容を審議の結果、これを承認した。
3. 次年度の第 37 回全国大会の開催について（田口・池田）
- ・第 37 回全国大会については、感染状況の収束状況を見据えながら開催方法も含め千葉商科大学の会員を中心に進めていただくことを提案し、承認された。
  - ・千葉商科大学の池田会員より、開催にむけての挨拶があった。
4. 第 12 期役員選挙結果について（田口）
- ・2021 年 6 月 8 日～15 日の持ち回り審議による理事会決定第 12 期役員選挙を郵送による投票で行うことを決定した。
  - ・会則では「総会において理事・監事を互選する（第 10 条）」となっていますので、本総会で以下の選挙結果の承認を諮り、審議の結果承認された。
  - ・5 月 30 日〆切りで郵送による投票を行った結果、総投票数 72 票、有効投票数 72 票で、以下の理事 10 名、学会監事 1 名、会計監事 1 名の当選が確定したと選挙管理委員会より報告があった。当選者は以下の通り（敬称略）。
    - ・東日本理事：大平義隆、秋野晶二、池田武俊、天笠道裕、田中央人
    - ・西日本理事：中瀬哲史、中川誠士、宇山翠、張書文、藤野真
    - ・学会監事：那須野公人
    - ・会計幹事：藤原篤志
5. 第 12 期理事・監事・幹事への申し送り事項（田口・中島）
- 第 12 期への申し送り事項として下記を確認し、了承した。
- ・学会誌の J-stage 等への一般公開へ向けた作業の実施。
  - ・学会誌の電子化への検討。
  - ・学会誌の内容の充実、投稿論文を増やす方策の検討。

- ・学会名簿の作成の代替としてのマイページの活用の徹底。名簿積立金の取扱。
- ・若手研究者育成のための奨励制度制定の検討。
- ・学会通常会計口座のインターネットバンキングの使用の検討：現在、学会通常会計口座は、りそな銀行の紙媒体の通帳とキャッシュカードを利用しているが、インターネットバンキングの活用を検討してもよいのではないかと考えられる。りそな銀行は、地域によっては三大メガバンクと比較して支店や無料で使えるATMの数が少なく、会計担当者が居住している地域によっては、振込や通帳記帳を行う場合に非常に手間がかかることが想定される。そこで、会計担当者の負担を減らすためにも、りそな銀行の学会通常会計口座についてもインターネットバンキングを活用することを検討してもよいのではないかと考えられる。また、インターネットバンキングにすることで、振込手数料の25%削減も実現できるというメリットがある。デメリットとしては、セキュリティ面での懸念、紙媒体の通帳がなくなる（必要に応じて残高証明等を印刷しておく必要がある）といった点が挙げられる。なお、2020年2月より会費収入管理専用口座（ゆうちょ銀行）は既にインターネットバンキングを活用している。

## 会員異動の報告（2021.4～2021.9）

### 【入会者】（敬称略）

「正会員」 樋口 徹（作新学院大学 経営学部）

山下 紗矢（佳武庫川女子大学）

中村 真悟（立命館大学 経営学部）

### 「院生会員」

小澤 真紀子（広島大学大学院 社会科学研究科マネジメント専攻）

柴田 喜悠（大阪市立大学 経営学研究科）

楊 正光（作新学院大学 経営学研究科）

佐瀬 美恵子（北海学園大学）

丸山 博之（早稲田大学大学院 経済学研究科）

磯部 太郎（広島大学 人間社会学研究科 人文社会科学専攻）

### 【退会者】（敬称略）

「正会員」 福澤 和久（愛知工業大学）

西之坊 穂（摂南大学）

田坂 正則（福岡大学大学院 商学研究科）

浅野 宗克（浅野経営研究所）

泉井 力（関西大学）

小山 登（小山登会計事務所）

富田 茂（キャリアオ技研株式会社）

藤井 勝紀（愛知工業大学）

「院生会員」 唐 万新（東北大学）

## メール登録・更新のお願い

現在、学会通信をはじめ学会に関する情報はメール配信を基本としております。9割方の会員の皆さまはメール配信で情報を届けることが出来ております。会員登録時にメール配信を希望されていない会員の皆さま、登録時とメールアドレスが変わっている会員の皆さまにおかれましてはメールアドレスの登録・変更の手続きをお願い致します。学会ホームページのマイページあるいは会員窓口へ連絡の上、登録・変更お願い致します。

## 異動時の会員情報更新のお願い

所属先、住所、メールアドレス等、会員情報に変更が生じた場合、逐次更新して頂きますようお願い致します。

学会ホームページに会員専用ページ（マイページ）を公開しています。会員情報の確認・変更や会費納入状況の確認等をWEBから行うことができます。学会ホームページの「マイページ（会員専用ページ）」からログインし、変更が必要な情報は逐次更新お願いいたします。なお、ログインに必要な会員番号とパスワードは、会費請求時に記載されている会員専用のログイン情報をご確認ください。

工業経営研究学会会員窓口（〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター、Tel：03-6824-9373 Fax：03-5227-8631、E-mail：asimj-post@bunken.co.jp）にご連絡頂いても結構です。

工業経営研究学会 学会通信 93号 (21-12) 2021.12.08

発行人 大平 義隆

編集担当 李 超

学会事務局 近畿大学経営学部キャリア・マネジメント学科 李超研究室内

〒577-8502 東大阪市小若江3丁目4番1号

Tel: 06-4307-3337

E-Mail: richou@bus.kindai.ac.jp、HP: http://asimj.jp/

工業経営研究学会 会員窓口（会費納入、住所管理、学会通信の郵送など）担当

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

Tel：03-6824-9373 Fax：03-5227-8631 E-mail：asimj-post@bunken.co.jp

※受付時間 平日 9:00～12:00、13:00～17:00（土日祝を除く）